

アカシア探検隊

広島平和研究所侵入の巻

甲 なあ。最近「平和」について

乙 はあ？（なんじや）

「しかし」って悩んでます
けど。

四
一

甲 そこで、今回は広島平和研究

タビュ

乙・明石きん今頃どうしとて
レジやうへ、一。

ということで、今回は

の方々分量の登場です。

水本先輩は東京大学法学部第3

部、ロサンゼルス支局長としてご

活躍されました。そして米国以外の
ヨーロッパ、法華堂で大盛

院修士課程修了後、広島大学大学

所助歎受。主な論文に「1世纪に
院を経て、'95年から廣島平和研究

「おける核問題と被爆体験」(平和研究26号)等があります。

甲..最近で言えば、9・11テロからの一連の世界情勢がありますが、これについてはいかがでしょうか?
水..まず最近のアメリカについて、最近、ますます一国主義の傾向を強めていると言われます。冷戦が終結し、単に世界唯一の超大国になつたから、という現象ではなく、あらゆる事を国際社会にはからなりで自国の利益に基づいて単独で決定しようとしている。今のアメリカは、クリントン政権時代に我慢していたタカ派的な人達が国を運動かして、ブッシュ大統領はそれにうまく乗っているという構図があります。そして「アメリカの安全こそが世界の安全だ」、「アメリカのする事はすべて正義だ」という意識をますます強めています。まあ唯一の超大国であることや背景にはありますが。いずれにしても、危険な論理ですよ。
乙..テロ撲滅という旗印の下でのアフガン空爆でもそれはうかがえますよね。
水..そうです。使える手段は何でも使い、あらゆる理屈を動員してそれを正当化する。また、自分がテロリストと断定した相手に対する対しては、地球の裏側まで出かけて行つても探し出し、自分たちの手で裁こうとする。はつきり言つて国際法などお構いなしです。
甲..広島の平和研究所で平和研究を行なさつてゐるわけですが、核問

題についてはどのような視点をお持ちですか？

水・ヒロシマは核問題を考える原点だと思います。でも、原点にいるだけでは問題の解決にはつながらない。言い換えると、被爆体験を語るだけで、或いは聞くだけで止まってしまってはいけないんですよ。ある新聞のインタビューで、「ヒロシマで被爆体験を聞くなど原点に足を置くだけで、思考停止していくはいけない」と言つたんです。掲載後に、被爆者運動の活動家から相当非難を浴びるかな、と覚悟しましたけど、そうでもなかつた。広島の平和運動もそろそろ、被爆者救済から、グローバルな問題へと視野を広げ、排他的な運動ではなく、包容力のある行動へと切り替える必要があると思います。

乙・広島出身の水本さんがそういう発言をなさるというのは非常に大きな意味がありますね。話は変わりますが、なぜ現職に就かれたのですか。

水・16年ほど記者生活をしていたんです
専門家のはしくれで生きてゆこうと思つてました。ところが、新聞社というところは、持ち場が変わ



ホリエントレバ・ライマー

るとそのたびに「から勉強で、少し分かったと思つたらまた別の部署へ。しかも、会社の言うことを聞いてないと、なかなか希望は聞いてくれない。このままでは、何も身につかないな、と思い、思い切って会社の選択定年制度を利用したんです。その後、広島大学の大学院で勉強していた時に、平和研究所が開設されることになり、研究者を探しているから応募してみないか」という話があつたんです。核や平和問題にはもともと関心があつたので、応募してみました。研究所側は当初、研究員候補とし、てビッグネームばかりのリストを作っていたそうですが、初代所長の明石さんが「人物はいらない。腰の軽い人を」と言わされたそうです。腰が軽いといえば記者ですよね。それで採用していただいたようです。

授業を受けて、放課後は野球。休みの日はユネスコ活動。勉強する暇が全然ない高校生活でしたね。でもそれぞれ真剣にやつて、野球でも同級生のエース草田君をはじめ山本君、大口君、秦君、そして僕（え、ほんま？）なんか優秀なのがいて、僕らのところから県大会の常連になりました。

乙・私は現役の時、草田先輩に相当ごかれました。

水・彼は現役時代も、コーチとしても相当母校に貢献しとるよね。

甲・アカシア会員の皆さんにもメッセージを。

水・いやあ、記者の頃から、ありがたい会だなあといつも思ってます。各界に優秀な方々がいらっしゃいますからね。ずいぶんと助けられた事がありますよ。母校の雰囲気同様、自由闊達な会の運営がこれまで以上になされるといいですね。ただ、母校が消えてなくなりんじやないかという、極端なウワサも耳にしてるんで、その辺がちょっと心配ですね。

甲、乙・今日はお忙しいところ、本当にありがとうございました。

* * * * *

甲・今日はちゃんと平和についての勉強ができたじやろう。

乙・家庭の平和構築研究をしとる先輩がどつかにおらんかのう……。

甲斐 稔(63回)
谷口 公啓(73回)

みの日はユネスコ活動。勉強する暇が全然ない高校生活でしたね。

「百年誌 編纂のための資料収集にご協力を

母校の歴史的資料を募る

■原爆で資料焼失した母校

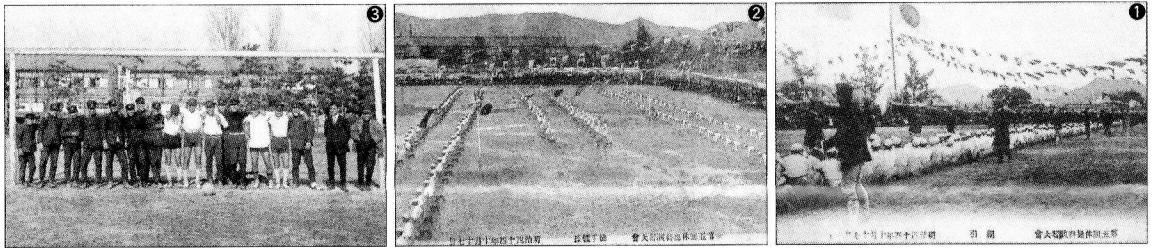
母校創立時の貴重な資料や学籍簿などを含む一切の資料を焼失したため、現存する歴史的資料は極めて少ない。

■お手元の資料のご提供を！

百年という節目の今、押入れや本棚の奥に眠っている日誌など在学中の資料をご提供いただきたい。古ぼけた生徒手帳、写真集、時間割り、学友会誌、同人雑誌、スクランプなど、こんなものが、と思われる紙切れが母校の秘史を語ってくれるかも。

■アカシア資料室に発展させよう

附属在学時代に関する資料は歴史的価値を持つものなので、保存しておく必要がある。ぜひアカシア会に寄贈を！



提供いただいた資料の中より、戦前のものを紹介します。①②明治四十四年十月第五回体操科演習大会の絵ハガキ③大正十三年度卒業記念アルバムより蹴球部④大正七年三月の卒業證書⑤昭和十六年十一月広島県少年籠球大会優勝記念写真⑥大正十五年頃の室積臨海授業の写真⑦大正十二年七月の遠泳證⑧昭和十八年十月原村演習場の写真

■これからも多くの方々のご協力ををお願いします。

甲斐 稔(63回)
谷口 公啓(73回)

